

4. 熊本大学理学部改善計画書

領域	改善計画（H27. 3. 31現在）	改善状況①（H27. 12. 1現在）	改善状況②（H28. 12. 1現在）
教育	（次の組織評価までに改善する計画） 理学士の質保証は卒業研究の成績評価が直接関係している。各コースで卒業研究の成績評価基準を検討し、理学部で共有することにより、教員間の共通認識の構築や学生への周知を徹底する。結果は、4年生アンケートなどを通して検証する。 新学習指導要領による教育を受けた学生への授業や指導、および大学卒業時の成績や達成度をもとに、PDCAサイクルを通して、教育内容の改善を行う。 全学の教育改革と整合性を取りながら、4年生アンケートなどを活用し、学修意欲を向上させる教育制度の改善策を作成する。	各コースの卒業研究の成績評価方法を教務委員会でまとめた。今後、理学部全体で共有し、教員間の共通認識や学生への周知を検討する。4年生アンケートの項目に、卒業研究に関する満足度や達成度を入れるように検討する。	各コースの卒業研究の成績評価方法を教務委員会でまとめ、理学部全体で共有した。昨年度卒業生の4年生アンケートによる卒業研究の満足度は有益だったとするものが93%に上っている。アンケート結果については、今後の経年変化を調べる必要がある。 新学習指導要領による教育を受けた学生とこれまでの学生の違いの印象を調査し、コースによって指導の変更を取りまとめた。
社会貢献	（次の組織評価までに改善する計画） 特定地域教育支援事業など、これまで理学部で取り組んできた社会貢献活動も含めて、全学における社会貢献活動と連携して高度化および効率的な実施に向けて、不断の改善に取り組む。具体的には、地域の数学や理科の教員との研修会を開くことなどが考えられる。	熊本県理科・化学教育懇談会において、大学教員と中高教諭と研修会などを行った。また、夢科学探検の開催や化学グランプリ、生徒理科研究発表会などへの協力など地域の教員への協力を実施した。	平成28年度熊本地震のため、経費の削減などにより予定通りの活動は行えなかったが、特定地域教育支援事業で、高森および地震の被害が大きかった南阿蘇地域の小中高生に対して、寺子屋を通して教育支援を行った。今年度より出前授業の募集を再開し、県内外の高校の要望に対応し、教員を派遣している。熊本県理科・化学および地学懇談会を実施して、大学教員と中高教諭と研修会を実施している。
その他 (男女共同参画)	（次の組織評価までに改善する計画） 学部および大学院の女子学生を対象にした進学に関する意識調査を実施し、結果を分析し、理学部学生対象の男女共同参画に関する事業を企画・実施する。	理学部長室において、学部および大学院の女子学生を対象にした進学に関する意識調査の実施時期、実施方法、アンケートの内容を検討している。	学部および大学院の女子学生の進学に関する意識調査を年度末に実施する。
管理運営	（次の組織評価までに改善する計画） 現在、大学院改組計画が進行中であり、改組後は教員および教育組織をシンプルにして、更なる迅速な意思決定とそれを周知する体制を整える。	大学院改組に合わせ、理学部長室において、改組後の迅速な意思決定のための体制を検討している。平成28年4月から教授会の開催時期を変更し、全学からの検討依頼に迅速に対応できるようにした。	平成28年度熊本地震のため、大学院改組が1年伸びたので、平成28年度に発足した研究部に教員は所属するが、教育組織である自然科学研究科はそのままとなった。この体制でも組織はシンプルに、迅速な意思決定ができるように、工夫し会議体を整備している。